

くまびょう

86号

NEWS

くまびょう
NEWS2004年
8月1日

【発行所】

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501(代)

FAX (096) 325-2519



開放型病院運営協議会開催報告

平成16年度第1回(通算18回)開放型病院運営協議会が去る7月12日(月)に開催されました。市医師会から福田委員長(熊本市医師会長)、家村委員、林田委員、田中委員にご出席頂きました。

最初に宮崎院長が委員の先生をはじめ医師会の先生方の日頃のご指導、ご協力に対するお礼を述べ、平成16年4月からの独立行政法人化移行に伴う体制の変更、病院建替工事等の状況、その他病院の現状報告を行いました。

続いて福田委員長が挨拶され、開放型病院の地域医療における重要性を強調され、医師会も協力して病連携、病診連携を推進し、熊本地域の医療に貢献していきたいと述べられました。

議事の報告と協議に移り、登録医数が7月9日現在で1,001名に達したこと、開放型病院利用状況では、訪問医師数、訪問回数、算定回数の年度毎(過去8年間)の利用実績の推移等が報告されました。また、前回の第16回開放型病院連絡会の報告と「くまびょうニュース」の発行状況についても報告されました。

協議事項として、①開放型病院運営協議会規程の改定:病院の名称の変更に伴い規程に記されていた「国立熊本病院」をすべて「国立病院機構熊本医療センター」に置き換えること、②第17回開放型病院連絡会を平成

16年9月1日(水)18時30分よりくまもと県民交流館パレオホールに於いて開催すること、③紹介患者の優先診療についての3点について協議され、いずれも承認されました。

その他、病院側より、病院建替工事に伴い、外来駐車場が城内プール跡地に移動し、ご紹介頂いた患者様・ご家族に迷惑をお掛けしていることのお詫びと、共同指導に来院された先生方には玄関前救急用駐車場をご利用頂くことの説明を行いました。

福田委員長の明瞭闊達な御司会で滞りなく協議会を終了致しました。(副院長 池井 聡)



第17回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催のご案内

第17回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が下記の要領で開催されることとなりました。医師以外の看護師、コメディカルスタッフ、事務の方々の参加も歓迎致します。多数の参加をお待ち致しております。

日時	平成16年9月1日(水)18時30分~21時		
場所	〒860-8554 熊本市手取本町8-9	くまもと県民交流館(鶴屋東館)	TEL 096-355-4300(代)
内容	1. 開放型病院連絡会総会(10階 パレオホール) 1) 症例紹介(紹介症例から) 2) パネルディスカッション「開放型病院の利用について」 2. 懇親会(7階 鶴屋ホール) 懇親会の会費5,000円は、当日受付で申し受けます。		

なお 当日会場にて新規登録医の申請もできます。登録医証の発行をご希望の先生は、会場で写真撮影を実施させて頂きます。また、施設見学(MRI、マルチCT、ガンマカメラ、心血管造影室、その他)をご希望される先生は、18時までに病院玄関にお集まりをお願い致します。見学終了後、タクシーにて連絡会会場までご案内致します。

〈連絡先〉 国立病院機構熊本医療センター管理課(仲地、上園)

〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL 096-353-6501 (内線390)



城内の 国立病院機構熊本医療センター への思い

新町いえむらクリニック
院長 家村 昭日朗



「幽霊屋敷のあるけん行かんがよかよ！」と国立病院機構熊本医療センターの方を指しながら清爽園（通称「おつき山」）で遊んでいた事を思い出します。「おつき山」は国立病院機構熊本医療センター裏手の法華坂の登り口にある公園です。この辺りは西南戦争の激戦地でもあり、また里程元標跡がある熊本の交通の起点となっていた所でもあります。当時、私を含め新町の子供達はこの「おつき山」から二の丸、古城堀端公園それに城内プール（現在は駐車場になっています）等国立病院機構熊本医療センターの周囲が遊び場でした。その中心にある白い建物は何となく近寄り難く子供心に行ってはいけない雰囲気がありました。

平成13年 4月福岡の県立病院を辞め帰熊し、9月に父の診療所を継承して新町いえむらクリニックを開業しました。その頃は熊本の医療体制がよく解らず、また国立病院機構熊本医療センターは最も近い総合病院であるにもかかわらず、「何か近

寄ってはいけない雰囲気」が拭えない敷居の高い病院と思っていました。しかし、父が国立病院機構熊本医療センターの運営委員をしていた事で、月1回の月曜日の勉強会の事を知り、また、月曜朝の抄読会MGHに参加させてもらい徐々に病院のイメージが変わった様に思います。

開業4日目にして肝細胞癌の患者さんが来られ初めて国立病院機構熊本医療センターを紹介させて頂きました。その後も無床診療所ではできない入院の必要な患者さんが次々とお世話になり病診連携の重要性を痛感しております。特に、夜間や休日の1人では手に負えない患者さんも、快く「ど～ぞぉ～」と受け入れてもらえる体制は町医者にはとても有難いものです。

入院となった患者さんには一両日中に病棟まで会いに行く様にしていますが、ほとんどの患者さんが満足されている様です。また、入院中のサマリーもきちんと送られ私にとってもまた退院後の患者さんにとっても大きな安心となっています。「近寄ってはいけない雰囲気」だったものが、最近では国立病院機構熊本医療センター抜きでは自院の診療は考えられない位になっています。また平成14年には父が心疾患で、今年正月2日には母が骨折でお世話になり患者さんの家族としての経験までさせて頂きました。父は入院中、病棟裏の茂みに住む船場たぬきの子孫とおぼしきたぬきに、残した病院食で餌付けまでしていた様です。

当院は国立病院機構熊本医療センターへの救急車の通り道にあり昼夜を問わず1日に何台ものサイレンが響いています。公的病院の存続が危ぶまれる中、病院スタッフの地域医療、病診連携への取り組みは大変なものと思いますが、今後とも熊本の医療のバックアップ病院として益々発展されます事を期待します。

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

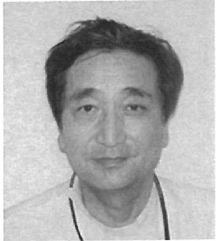
送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

2004年
診療科紹介(10)
外科

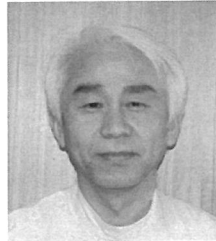
外科の特徴

チーム医療を心がけ、スタッフ全員ですべての患者に目が届くように、7時45分と17時、スタッフが集まり、重症症例、術直後症例、新入院患者の症例呈示とミーティングを行い回診しています。一般外科業務以外には、片渕部長と芳賀医長はインフェクションコントロールドクターとして院内感染対策を、松崎医師は栄養支援委員会(NST)のディレクターとして栄養サポートチームを牽引しています。



池井 聡

一般外科、消化器外科、肝胆膵、
 内視鏡外科、救急医療
 日本外科学会認定医・指導医・専門医、
 日本消化器外科学会認定医・指導医、
 日本消化器病学会専門医、熊本大学医学部臨床教授、
 熊本大学医学部非常勤講師



片渕 茂

一般外科、消化器外科、肝胆膵、
 内視鏡外科、外科感染症
 日本外科学会認定医・指導医、
 日本消化器外科学会認定医・指導医、
 日本消化器病学会専門医、
 日本消化器内視鏡学会認定医、
 インフェクションコントロールドクター



芳賀 克夫

一般外科、消化器外科、内視鏡外科、
 内分泌外科、外科感染症
 日本外科学会認定医・指導医・専門医、
 日本消化器外科学会認定医・指導医・専門医、
 日本消化器病学会専門医、
 インフェクションコントロールドクター



山下 眞一

一般外科、呼吸器外科、
 胸部外科、内分泌外科、
 消化器外科、内視鏡外科
 日本外科学会認定医・専門医、
 日本胸部外科学会認定医、日本乳癌学会認定医、
 日本呼吸器外科専門医



栗崎 貴

一般外科、消化器外科、内分泌外科、
 内視鏡外科、救急医療
 日本外科学会認定医・専門医



松崎 法成

一般外科、消化器外科、
 栄養管理、内分泌外科、
 内視鏡外科
 日本外科学会認定医・専門医



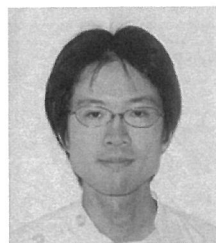
吉田 直矢

一般外科、消化器外科、
 救急医療
 日本外科学会認定医・専門医



井田 智

一般外科、救急医療



富樫 陽彦

一般外科、救急医療



辛島 龍一

一般外科、救急医療

診療内容

外科は、消化器、乳腺、肺・縦隔の悪性疾患を中心に、甲状腺、乳腺、肺・縦隔、消化管（食道から肛門まで）、肝・胆・膵、脾・副腎の疾患および外傷等を診療しています。

特に「がん」の診療に力を入れており、診断、治療、術後管理まで一貫した診療を行っています。昨年の外科入院患者数は1,237名、手術件数は643件で、うち鏡視下手術が179件と鏡視下手術を積極的に行っています。特に食道癌手術は山下眞一医長が中心となり腹腔鏡、胸腔鏡を用いた低侵襲手術により、手術室で気管内挿管チューブの抜管が可能となり、術後QOLの大幅な向上をもたらしています。PTCD、閉塞性黄疸・気管狭窄・食道狭窄に対するステント挿入等の非観血的治療や「がん」に対する化学療法、ホルモン療法、免疫療法も行っています。

またERCP、内視鏡検査、超音波検査、消化管造影検査等の検査も手がけています。

研 究

研究面では「手術侵襲の定量化」「院内感染に対する取り組み」等の研究を行っており、特に芳賀医長はこれまで多くの全国規模の研究班の班長を務め、本年度は厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「諸外国における院内感染対策の応用に関する研究」班の班長として全国の研究者をまとめて研究を行っています。



朝7時45分からのカンファレンス風景

国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

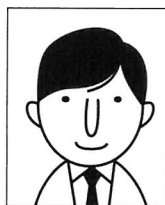
登録医証につきましては、共同指導の際に名札としてご利用いただけます。

発行をご希望の先生は、管理課庶務係（TEL 096-353-6501 内線390）までお申し込み下さいますようお願いいたします。

なお、写真は時間内であれば院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、外来駐車場にて駐車券をお取り頂き、医事0番窓口（時間内）又は、時間外受付（時間外）にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証



熊本市医師会
熊本 太郎

平成16年1月1日交付
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
3. この証を紛失又は破損したときは、速やかに再交付の手続きを行って下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。

最近のトピックス

肺癌治療の新しい展開



総合医療センター

呼吸器内科

溝口 祐輔

新しい治療である“分子標的治療”は、細胞の増殖、浸潤、進展、転移といった癌細胞の生物学的特徴と関連した遺伝子や蛋白質をターゲットにした治療です。肺癌の分野では上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ阻害剤のゲフィチニブ（商品名：イレッサ）があります。2002年7月に承認されて以来、非常に多くの患者様に投与され、既に治療を行ったことがある進行非小細胞肺癌に対して高い抗腫瘍効果を発揮しています。今回はゲフィチニブの特性と今後の展開について少し述べたいと思います。

ゲフィチニブは手術不能、又は再発した非小細胞肺癌に対して1日1回1錠の投与が承認された経口薬です。非小細胞肺癌であればほとんどの症例に投与出来ることとなります。進行非小細胞肺癌の患者に対してはクリニカルベネフィット（臨床面における利益）を中心としたQOLを重視した治療が重要であるとされていますが、ゲフィチニブはこの面でも大きな効果をあげています。自覚症状改善率は40.3%、抗腫瘍効果別自覚症状改善率は、奏効例および不変例で約70%と高く、また自覚症状改善までの中央値は8日と早期に効果が得られています。また抗腫瘍効果としても、病勢コントロール率54.4%、奏効率18.4%、1年生存率35%、生存期間中央値13.8カ月と高い抗腫瘍効果を発揮しています。奏効に関する因子として女性、非喫煙者、腺癌、肺胞上皮癌等があげられています（右図）。

ゲフィチニブの副作用は間質性肺障害、急性肺障害が重篤で約3%の発症率で致死的な経過（約1.6%）をとることもあり注意が必要です。しかしながら、化学

療法と比べると全般的に忍容性に優れており、ほとんどの有害事象は軽症から中等症で、蓄積性はなく回復可能なものとされています。高頻度なものとして皮疹と下痢があります。

現在、多くの臨床試験が行われており、抗癌剤化学療法や放射線療法との併用などの治療戦略が立てられており、エビデンスが証明されれば肺癌治療に新たな展開が期待されます。

当科でも今までのエビデンスを参考に、患者背景（性別、腫瘍組織、年齢、全身状態、臓器障害など）を十分考慮し、患者様がゲフィチニブの恩恵をもれなく、行きすぎることなく受けられるよう加療していきたいと存じております。

現在、肺癌は悪性腫瘍による死亡原因の第1位となっており、予後不良の疾患です。非小細胞肺癌は全肺癌の約80%を占めており、化学療法に対する感受性は良好とはいえませんが、多くの症例は発見時に局所進行、もしくは遠隔転移を来している進行癌であり、化学療法が重要な役割を果たしています。しかしながら1990年代に登場した第3世代抗癌剤（ゲムシタビン、パクリタキセル、ドセタキセル、ビノレルビン、イリノテカン）の治療成績の向上もわずかであり（進行非小細胞肺癌の5年生存率は10~20%前後と低い）、進行非小細胞肺癌に対する化学療法の有効性は飽和状態に達しているとも考えられます。

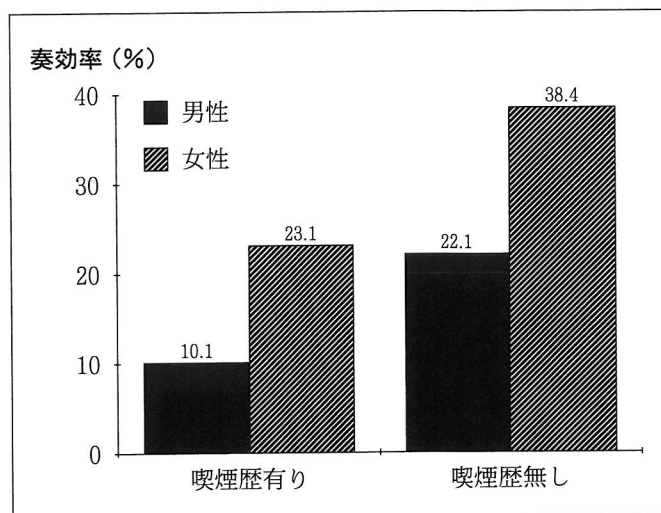


図. 性別と喫煙状況における奏効率

日本内分泌学会認定教育施設に 認定されました



総合医療センター
内分泌・代謝内科
(糖尿病センター)

部長 東 輝一郎

日本内分泌学会は、内分泌代謝専門医の育成を目的に平成16年4月より認定教育施設の認定を開始しました。

そしてこの度、国立病院機構熊本医療センターは、第1回の認定審査に合格し、平成16年4月1日付けをもって教育施設に認定されました。

施設の資格としては

- ①申請時において、常勤の内分泌代謝科指導医が在籍していること。
 - ②内分泌代謝科の専門外来及びその病床が備わっていること。
 - ③申請時において、継続5年以上にわたり、十分な内分泌代謝疾患の診療実績を有すること。
 - ④施設に医学図書館(室)、診療記録管理室があること。
 - ⑤研修カリキュラムに基づいた教育が可能であること。
- の上記5項目をすべて満たすことが必要です。

本センターは、すでに日本糖尿病学会の認定教育施設であり、これで教育施設としてさらに充実することになりました。

救命救急センターよりご案内 (救命救急センター1周年)

昨年の8月より救命救急センターの認可を受け、早いもので1周年を迎えました。さらに、今年の4月からは、スタッフを大幅に増員することができ、かなり充実しました。ご紹介いただきました患者様は、救急外来にて救急医により即座の応急処置と検査・鑑別が行われた後、各科専門医による特殊最先端治療を受け救命救急病棟へ入室します。現在、1月に約1,000~1,200名の方が救命救急センターを受診し、その約1割の方が救命救急病棟に、約4割の方が一般病棟に入院されています。

当院では、質の高い、最高の治療を短期間で行う効率的な医療の提供を目指し、クリティカルパスを作成し実践致しています。救命救急センターより入院される患者様の32%の方に使用されています。今後も救急疾患対応型のクリティカルパスを充実させて入院された患者様に最高の医療を提供できますよう努力したいと考えております。

さて、当救命救急センターでは、救急医療の充実に向けて、年7回(5月、6月、8月、9月、11月、2月、3月の第4水曜日)地域医療研修センターの研修

ホールで午後6時30分より1時間半の予定で救急症例検討会を開催しています。来たる8月25日(水)開催の第64回救急症例検討会では、救命救急センターの1周年を記念しまして、日本集中治療医学会総会会長の山口大学医学部生態侵襲医学講座教授前川剛志先生に「救急医療推進のための救命救急センターとしての使命と課題」と題して特別講演をお願いしています。多数のご参加をお待ちします。

(救命救急センター部長 高橋 毅)



研修のご案内

第67回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成16年8月16日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内科医長 島田 達也
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例提示「甲状腺機能亢進症による急性心不全の4症例」
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科 大庭 圭介
4. ミニレクチャー「不明熱について：最近経験した症例から」
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液膠原病内科 日高 道弘
5. その他

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501（代表） FAX 096-325-2519

第9回 熊本がんフォーラム（無料）

日時▶平成16年8月17日（火）18：30～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

司会 福岡レディースクリニック院長 福岡 啓造

国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長 三森 寛幸

婦人科悪性腫瘍の現況

その他、一般演題を数題準備しています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 池井 聡 TEL 096-353-6501（代表） FAX 096-325-2519

第37回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成16年8月19日（木）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 慢性膵炎の急性増悪をきたした糖尿病性ケトアシドーシスの1例

国立病院機構熊本医療センター 大磯洋、青木由香、石井規夫、市原ゆかり、高橋毅、東輝一朗、小堀祥三

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科医長 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501（代表）内線796

第64回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成16年8月25日（水）18：30～20：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

症例検討「急性腹症」

国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医長 菊川 浩明

特別講演「救急医療推進のための救命救急センターとしての使命と課題」

山口大学医学部生態侵襲医学講座教授 前川 剛志

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

平成16年 研修日程表 8月

8月	研修ホール	会議室	ほか
1日(日)	8:50~14:30 第11回 膝関節セミナー〈会費制〉 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] [日整会4単位認定(スポーツ1単位・リウマチ3単位含む)] 1. 高齢者膝関節疾患の画像診断 横浜市立大学大学院医学研究科 運動器病態学教授 齋藤 知行 2. 変形性膝関節症の治療戦略 長野県厚生連長野松代総合病院副院長 秋月 章 3. 変形性関節症のサプリメント療法 -グルコサミンとコンドロイチン- 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター講師 中村 洋 4. 膝前十字靭帯損傷の治療戦略 熊本大学大学院医学薬学研究部 運動骨格病態学助教授 水田 博志		
2日(月)		17:00~18:00 病理細胞診検討会(図)	8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
3日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
4日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
5日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
6日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
9日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
10日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
11日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
12日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
13日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
16日(月)	19:00~20:30 第67回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]	17:00~18:00 病理細胞診検討会(図)	8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
17日(火)	18:30~20:30 第9回 熊本がんフォーラム 「婦人科悪性腫瘍の現況」	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
18日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
19日(木)	19:00~20:30 第37回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
20日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
23日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
24日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
25日(水)	18:30~20:00 第64回 救急症例検討会 症例検討「急性腹症」 特別講演「救急医療推進のための 救命救急センターとしての使命と課題」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
26日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
27日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
30日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
31日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来
 問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
 TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)